

環境配慮型 ノウハウ蓄積

SMFL 船舶リース社に出資



三井住友ファイナン
ス&リース(SMFL)のリース事業を手がけるピュラス・マリオン(英領ケイマン諸島)に出資する。▲ピュラス・マリオンのバッテリーハイブリッド式洋上風力作業支援船(左)

出資額は20億円規模とみられる。世界的なカーボンニュートラル(温室効果ガス排出量実質ゼロ)の潮流を受け、海運業界では電動化や次世代燃料への移行が進む見込み。今回の出資を通して、環境配慮型船舶ビジネスへの本格参入に向けた知見やノウハウを蓄積する。

ピュラス・マリオンは2020年1月に創業。米ニューヨークや英ロンドン、シンガポール、オランダのロッテルダムなどにオフィスを構え、約300人の社員がいる。大手風力発電企業向けにバッテリーハイブリッド式洋上風力発電支援船を、欧州の自治体向けに電動フェリ

ー、水上バスのリース事業をそれぞれ展開する。また、海運会社向けには二酸化炭素(CO₂)回収装置付き小型コンテナ船を、エネルギー大手向けには燃料改善装置付き液化天然ガス(LNG)運搬船のリースをそれぞれ手がけており合計約50隻を保有する。

25年までに保有船舶数を100隻に増やし、30年代に同社保有船のCO₂排出量ネットゼロの達成を目標としている。

SMFLは20年に海運のCO₂削減を促す金融機関の国際的枠組み「ボセイドン原則」にリース会社として初めて参画した。21年には船のCO₂削減の実績に応じて料金が変動する「サステナビリティの取り組みを推進して」の提供を始めるなど、海運業界の脱炭素化への取り組みを推進してきた。